

くろしお協力隊に聞く



㊦ 5月から協力隊に着任した林さん。なぜ黒潮町の協力隊を選びましたか？

㊦ 元々高知県が好きで、市内にはよく遊びに来てたんですが、Tシャツアート展がきっかけで黒潮町という場所を知って、イベントにあわせて黒潮町に来た時に民宿に泊まりました。そこで出してもらったカツオのたたきがおいしかったのと地元の人との会話が楽しくて、黒潮町に来て、もっと高知県が好きになりました。2年前にTシャツアート展のボランティアとしてはじめて5日間黒潮町で過ごして、毎日海の変化が表情が変わるのを見て、新鮮で「こういう環境で過ごした時に自分がどんな風に変化をするのかな」というのを考えていました。そこからたくさんの魅力を知って、移住を検討するようになりました。その時に協力隊の募集を見つけ、地域の人と密接に関われるということを知って、今回募集があったハウスマスターなら前職で教員をしていた経験を活かせるし、これまでとは違う形で子どもたちに関わる仕事ができるんじゃない、黒潮町を志望しました。

㊦ 黒潮町に住んでみてどうですか？

㊦ 住むまでは、食べ物がおいしくて、海もあって環境がいい印象がありました。黒潮町に来てからは地元の人からのおすそ分けをいただいたり、気にかけてくださったり、すごく温かいなと思いました。黒潮町に移り住むまでは、海の景色にばかり目が行ってましたが、暮らすようになってからは、田んぼや畑の風景、夕暮れの時間帯の空模様にも魅力を感じています。



帰ってきた学生と話をしている林さん

㊦ 今後どんなふうに関わりをしていきたいですか？

㊦ 料理が好きなんですけど、地元の野菜を使って農家の人と子どもたちを繋げることや、黒潮町にある「さしすせそ」の調味料を町外の人にも伝える魅力発信をやっていきたいなと思っています。

協力隊から一言！

地域の方々、黒潮町の皆さん、よろしくお願いします。見かけたら声をかけてください。皆さんと楽しい時間を一緒に過ごしていけたらと思います。

【今月の担当者】
地域おこし協力隊
(ハウスマスター)
はやし か な こ
林 加奈子

Kramer's Corner クレームのコーナー



今月のテーマ アメリカの迷信

6月は僕の誕生日で、33歳になります。もし僕が女性だったら、今年は厄年の翌年、つまり後厄になります。皆さんは知っているかもしれないが、アメリカには「厄年」という概念はありません。何が幸運か不運かと考えられているのは、文化によって異なります。今回のクレームのコーナーで、日本にないアメリカの不吉な迷信を少しお話ししたいと思います。

最初に紹介するのは傘についての迷信。今はもう慣れてきたが、雨の日に日本人の友たちが傘を乾かすために開いて玄関に置いたのを初めて見てショックを受けたのをはっきりと覚えています。なぜかと言うと、アメリカでは室内で傘を開くと非常に縁起が悪いと考えられ、子どもの頃よく母に注意されたものです。この迷信の理由を調べてみたが、ある説明によると、ビクトリア朝時代のイギリスに由来し、硬いバネと金属製の骨で作られていた当時の傘を室内で開くと人を傷つけたり、物を壊したりする危険がありました。とても実用的な理由から生まれた迷信です。

もう一つは小銭についてです。アメリカで落ちた1セント玉を見つけたら、拾う前によく確認すべきです。表向きだったらラッキーだが、裏向きのを拾ったら不運を招くと言われています。でも、裏向きの玉をひっくり返せば、次に見つけた人が幸運になります。これは父がよく信じていたことで、裏向きの玉を決して拾いませんでした。一方、僕は全く気にせず、見つけたコインを全て拾いました。子どもの僕は不運を心配するより、お金を見つけることに喜びを感じていたようです。



今月の使える！英語

アイ ラックアウト アウト
I lucked out! 運がよかった！

アウト
Outの単語が付いているから「運が悪い」という意味に聞こえるかもしれないが、実は逆です。運がとてもいいという意味です！

